

横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、
以下のように表記する。
例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

＜知能レベル＞					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1
戸 外 歩 行 可	室 内 歩 行 可	室 内 移 動 可	座 位 保 持 可	寝 返 り 可	寝 返 り 不 可
＜移動機能レベル＞					

簡単な計算可
簡単な文字・数字の理解可
簡単な色・数の理解可
簡単な言語理解可
言語理解不可

＜特記事項＞
C:有意な眼瞼運動なし
B:盲
D:難聴
U:両上肢機能全廃
TLS:完全閉じ込め状態

ひかりの子 (児童発達支援事業の 日常活動紹介 高橋せい子)

その都度、姿勢は変えていかねばならないと考えています。

児童発達支援センターひかりの子(児童発達支援事業)には、現在1歳11ヶ月から6歳までの子供たち33名(横地分類A1が22名、A2が2名、A3が1名、A4が3名、A6が1名、B1が1名、C4が2名、D4が1名)が通園していま

す。今回は、Aちゃんの絵本の楽しみ方がどのように変わっていったのかを紹介します。

現在5歳のAちゃん(横地分類A1)は、2歳から単独通園が始まりました。Aちゃんは、通園当初から絵本を集めて見ることが出来ました。大好きな絵本『いないいないばああそび』を読むと、体を反らせて口を大きく開け声を出して笑いました。この絵本は色彩が鮮やかで、ページ全体にコントラストの鮮明な大きな目の猫やひよこ、女の子などの顔が描かれたインパク

トの強い絵本です。Aちゃんはこの本を見るだけで喜び、ページをめくる度に体を反らせて笑いました。単調な言葉のリズム『いないいないばあ』に合わせてページをめくると、より楽しさが増し声を出して笑いました。場面の変化と言葉のリズムを楽しむことが出来ました。

3歳になると、絵本『おおきなかぶ』の短い言葉『うんとこしょ どっこいしょ』や擬音の絵本『がちゃがちゃどんどん』を喜んで見るようになりました。読み手の声の抑揚や短い言葉のリズムを楽しんで聞いていました。

4歳になると、『さつまのおいも』の『はっぱをあつめてたきびして みんなでたのしい やさいもたいかい』のようにな少し長い文章をリズムカールに抑揚をつけて読むことで、言葉のリズムの流れを楽しんで聞くようになりました。



そして、5歳になった今、繰り返し読んでいる本は『おおきなかぶ』です。最初から最後まで言葉のリズムの流れを覚え、次を期待して聞くようになりました。最初のページには赤紫のかぶの絵と『おおきなかぶ』と題だけが書いてあります。そのページを開いて題を読むと、目をキラキラさせ口元が緩み、次のページを期待しニコニコと笑顔になります。それからは、じつと絵本に集中し表情を変えず真顔で聞き入ります。そして、繰り返し言葉『まごがおばあさんをひっぱって おばあさんがおじいさんをひっぱって おじいさんがかぶをひっぱって』と始まると、後に続く『うんとこしょどっこいしょ』に期待して、ニヤツと笑いかけては止め、また、笑いかけては止めといった表情を見せます。待っていた『うんとこしょ』と言いだめると「ククク・・・」と声を出して満面の笑みで笑います。そして、終わりのページの言葉『やつと かぶはぬけました』では、絵本の最後が場面と言葉のリズムから分かり、ずっと聞き入っていた集中した表情から、ふわああと口を開けにつこり笑い満足した表情になります。

変化と言葉のリズムで楽しんでいました。しかし、今では繰り返し絵本遊びを続けるうちに、言葉のリズムの流れを覚え、次を期待しながら聞く事が出来るようになりました。

すばるの 日常活動紹介 吉國 香苗

すばるは、入所者21名(横地分類A1が11名、A2が5名、A3が1名、B1が3名、D1が1名)が生活しているゾーンです。

Aさんは、他の利用者さんの声や職員の声をよく聞いています。Aさんに話しかけると顔を職員の方に向けたたり、笑ったりします。日常活動では、絵本の語りかけ活動や優しい響きの音の活動をしています。

絵本の語りかけ活動では、読み始めると読んでいる職員の方へ顔を向けて、口をもぐもぐもぐと動かし始めて語りかけが始まったことを感じ、表情がぱつと明るくなって嬉しそうになります。繰り返しのフレーズや言葉のリズムに興味を持ってよく聞いているようです。

『だんまりこおろぎ』の「こ